

ミャンマー国 金時生姜の高付加価値化

健康食品への製品化で農業従事者の所得向上に貢献する

国際協力機構(JICA)は、「中小企業海外展開支援事業～基礎調査～」において有限会社ファルマフード研究所(京都府京都市、代表者 宇野 智子)が提案する「金時生姜育成と販売に係る事業調査(中小企業連携促進)」(ミャンマー国)を採択しました。

ミャンマーは国民の60%が農業に携わっており重要な産業となっていますが、主とした生産物である米、豆類、ゴマ、落花生のいずれも生産性が他のアジアの国に比べて低いのが現状です。

金時生姜は他の生姜と比べ薬効成分がかなり多く、同社は健康食品として使えるライセンスを取得しております。同社はミャンマーで金時生姜の栽培を化学肥料、農薬を用いず、有機肥料を使うことにより薬効成分を高め、粉末にして健康食品として製品化することを計画しています。そのため、現地での生産・加工に係る連携の可能性や商品販売の可能性を調査します。これにより、金時生姜生産者の所得向上が期待されます。



金時生姜の栽培



洗浄



乾燥



出荷

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～基礎調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2015年度分は昨年9月に公示を行いました。40件の応募のうち17件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

参考:(プレスリリース)基礎調査 2015年度公示の採択結果について

URL:http://www.jica.go.jp/announce/notice/fs/ku57pq00001pm6r5-att/fs_20150904_result.pdf

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 関西 業務第一課 李 (イ)

TEL : 078-261-0397 e-mail : Lee.Sanggyoon@jica.go.jp